

1. 事業の概要

近年、中国を始め、韓国、日本でも被害が急激に拡大している黄砂は、日本、韓国、中国及びモンゴルの共通関心事項であり、16年12月に開催された4カ国環境大臣会合(東京)においても、積極的に取り組んでいくことが合意された。現在、これら4カ国及びUNEP等の国際機関による国際共同プロジェクト「ADB-GEF黄砂対策プロジェクト」が実施されているところ。これを受けて、国際的な連携の下、北東アジア地域における黄砂モニタリングネットワークを確立し、各国における効果的な対策実施を促進する必要がある。このような背景のもと、以下の事業を実施する。

国内における専門家等により、黄砂モニタリングについて中長期的に取り組むべき内容を検討

国際プロジェクトの提唱によるライダー(レーザー光線により、上空の黄砂の分布をリアルタイムで観測する装置)ネットワークで得られたデータを、日本、韓国、中国、モンゴルの4カ国で検証・交換を行う枠組について、国際ワークショップ等を開催し、その枠組を検討
ライダーネットワークにより得られたデータの具体的な検証作業は、観測機器の早期診断プログラムの設計・導入生データの解釈に係るマニュアル作成、地上観測データとライダーデータとの比較

2. 事業計画

項目	15・16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
ライダー装置による黄砂モニタリングネットワークの整備、運営						
黄砂モニタリングネットワークの確立						

3. 施策の効果

黄砂に関するモニタリングデータの検証作業を国際的に行うことにより、信頼性のある正確なデータを得ることが可能となり、予測や一般市民への周知等への利用の一層の促進及び関係国における対策の推進に資する。

黄砂モニタリングネットワーク(イメージ図)

